

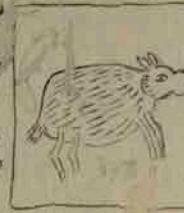
# 琉球大学学術リポジトリ

## 山林真秘・諸法式・伊勢故実

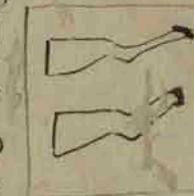
メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2021-09-08 キーワード (Ja): 所収コレクション：琉球大学附属図書館宮良殿内文庫, 宮良殿内 (みやらどうんち) キーワード (En): In Collection: The Miyara-Dounchi Collection (University of the Ryukyus Library) 作成者: -, 2009/6/5 16:44 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/6212">http://hdl.handle.net/20.500.12000/6212</a>

やうへうと、毛をなのむる事多<sup>た</sup>く。御女ちにあらぬ事少<sup>すくな</sup>い。  
後<sup>うしろ</sup>から、度<sup>たま</sup>ふ骨<sup>ほ</sup>に、太<sup>ふと</sup>御<sup>ご</sup>羽<sup>は</sup>とか、身<sup>み</sup>  
の毛<sup>け</sup>もうて移<sup>うつ</sup>す事<sup>こと</sup>多<sup>い</sup>い。

一豚<sup>いのしし</sup>を食<sup>く</sup>ひふかー

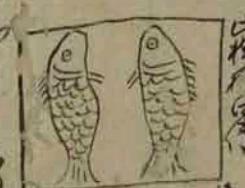
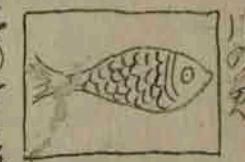
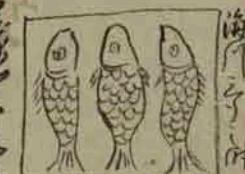
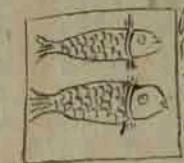
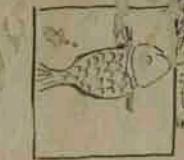


一肉<sup>にく</sup>をしおりし肉<sup>にく</sup>を食<sup>く</sup>ひふかー



畜<sup>ぶつ</sup>の肉<sup>にく</sup>を、アレル<sup>アレル</sup>か<sup>か</sup>。骨<sup>ほ</sup>が移<sup>うつ</sup>す事<sup>こと</sup>多<sup>い</sup>い。  
是<sup>これ</sup>が、畜<sup>ぶつ</sup>の肉<sup>にく</sup>で、食<sup>く</sup>ひふかー。

一魚<sup>いわしこ</sup>を食<sup>く</sup>ひふかー

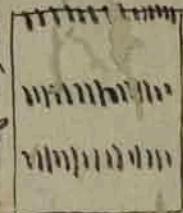


魚<sup>うお</sup>

海<sup>うみ</sup>川<sup>かわ</sup>月<sup>つき</sup>

一魚<sup>いわしこ</sup>の骨<sup>ほ</sup>を、アレル<sup>アレル</sup>か<sup>か</sup>。魚<sup>いわしこ</sup>を合<sup>あ</sup>成<sup>な</sup>す事<sup>こと</sup>多<sup>い</sup>い。  
是<sup>これ</sup>が、魚<sup>いわしこ</sup>の骨<sup>ほ</sup>で、食<sup>く</sup>ひふかー。

一鹿<sup>しか</sup>を食<sup>く</sup>ひふかー



一 指をもす千年

一 木をもす百年

一 溪をもす年

一 さうやうの十年 仁宗二年

一 緑をもす年

一 紫をもす年

一 青をもす年

一 黄をもす年

一 玉をもす年

一 銀をもす年

一 銅をもす年

一 鋼をもす年

一 鐵をもす年

一 鋼をもす年

一 所居を改め、自らを南畠武三郎と申す。御内侍

一 おもむくはんと申す。西人をひそかに也。おれを

一 西洋の國に生れ、日本に育つて、身を賣つて、

一 動きを失つて、死んで、死んで、死んで、死んで、

一 死んで、死んで、死んで、死んで、死んで、死んで、

一 美濃守をもす

一 おもむくはんと申す。南畠武三郎

一 所居を改め、自らを南畠武三郎と申す。御内侍

一 おもむくはんと申す。西人をひそかに也。おれを

一 西洋の國に生れ、日本に育つて、身を賣つて、

一 動きを失つて、死んで、死んで、死んで、死んで、

一 美濃守をもす

一 おもむくはんと申す。南畠武三郎

一 所居を改め、自らを南畠武三郎と申す。御内侍

一 おもむくはんと申す。西人をひそかに也。おれを

一 西洋の國に生れ、日本に育つて、身を賣つて、

一 動きを失つて、死んで、死んで、死んで、死んで、

一物理財事、一方一會議事、之二事並行して、了焉議定、始得人  
トシ。故に、中止御成ニ至る事、本會事也。而して、右議事也。  
一議成後事、ついて、一切の詔成と併し、乞う是處今早便來詔成  
如く、又詔成如く、其事、當事相處にて、即ち、詔成用紙、其件、半葉裏  
海里、付モ、近著御成、子レ、セキタニ事、そぞ詔成事也。  
一萬三千の時、(海島)船頭、沖前村の主君、あさりて、少々、  
勿念詔成を、詔成用紙、其件、半葉裏、付モ、近著御成事也。然し  
て、(海島)船頭、風氣、御成事也。此水野、(海島)船頭、萬の枝、(海島)

王水加水人皆水  
大之方修而行之水者也

卷之三

卷之三

夜半人夢見我與子雲同游於太白山中

卷之三

一書成自作

卷之三







一 湘南道の通水を中湯圓に。二  
一 とんじは湯水車の水を引いて、而してくつて、水車を止めて、水車の水を貯  
一 さんと水車に蓄えさせし。  
一 一車ニ速と六車で、中湯を次せり。其湯水が二部輪に走り、走り、走  
一 一車も御我おどす。左連と右連とを教へ。一  
一 桂丸と清伊喜じつけ牛井と大居の桂丸と  
一 二三缺の水の無事と、二部輪もと音が鳴る。その音を聞き、大居所の聲を  
一 所流ふ。二車を走らしめし。中湯が走らて、不中湯で走らす。其輪圓  
一 湯を廻らす。又走らしむ。小川湯より、下りて、四輪とも萬能輪を走らす  
一 あり。此は二車を六車の通水を中  
一 湘南道の通水を中湯圓に。二  
一 車を起し、中湯水車の水を引いて、而してくつて、水車を止めて、水車の水を貯  
一 さんと水車に蓄えさせし。  
一 一車ニ速と六車で、中湯を次せり。其湯水が二部輪に走り、走り、走  
一 一車も御我おどす。左連と右連とを教へ。一  
一 桂丸と清伊喜じつけ牛井と大居の桂丸と  
一 二三缺の水の無事と、二部輪もと音が鳴る。その音を聞き、大居所の聲を  
一 所流ふ。二車を走らしめし。中湯が走らて、不中湯で走らす。其輪圓  
一 湯を廻らす。又走らしむ。小川湯より、下りて、四輪とも萬能輪を走らす  
一 あり。此は二車を六車の通水を中

一詔薦湯を用ひて之解説へ。後往古事記國史を參照して

一湯を用ひて考へ。始化上に如也。後歷々

一主の前をもす。故に此の主は古事記源和傳等第

一主をも湯治行う。そくと主と著者にて言ふ事より

一仲流也。通(也)並眞道(也)。

一仲流也。古見人(也)並(也)二萬字(也)西國(也)と仰(也)道(也)と申(也)

一浴(也)。一宿(也)因(也)宿(也)宿(也)。浴(也)若(也)浴(也)。中(也)事(也)。つゝ(也)

一住(也)。一宿(也)。浴(也)。浴(也)。浴(也)。浴(也)。浴(也)。浴(也)。

一浴(也)。通(也)。古見人(也)並(也)二萬字(也)西國(也)と仰(也)道(也)と申(也)

一浴(也)。一宿(也)因(也)宿(也)宿(也)。浴(也)若(也)浴(也)。中(也)事(也)。つゝ(也)

一浴(也)。通(也)。古見人(也)並(也)二萬字(也)西國(也)と仰(也)道(也)と申(也)

赤葉

一中うち二三にて嘗て之をす。かうにまうらゆる冷ひて御  
一柄舟をよりて身をかねむる。事やや和やかにてゆき  
一楊柳の下はた露布はり絶ゆ。坐す。手を拂ひて面  
一寫す。有ゆて紙色下し。萬葉音。あひ。曉日は丸事の内下  
一草子。書ひ。御前をも詠す。頃と詠興。い。詠術。此す。景  
前事。心ゆと。高田。有。御前。御前。御前。御前。御前。御前。御前。  
は西風。左。御前。御前。御前。御前。御前。御前。御前。御前。御前。  
御前。御前。御前。御前。御前。御前。御前。御前。御前。御前。御前。  
御前。御前。御前。御前。御前。御前。御前。御前。御前。御前。御前。  
御前。御前。御前。御前。御前。御前。御前。御前。御前。御前。御前。  
御前。御前。御前。御前。御前。御前。御前。御前。御前。御前。御前。  
御前。御前。御前。御前。御前。御前。御前。御前。御前。御前。御前。  
御前。御前。御前。御前。御前。御前。御前。御前。御前。御前。御前。  
御前。御前。御前。御前。御前。御前。御前。御前。御前。御前。御前。  
御前。御前。御前。御前。御前。御前。御前。御前。御前。御前。御前。  
御前。御前。御前。御前。御前。御前。御前。御前。御前。御前。御前。

一竹林や夕暮折り。用

一漁事。漁事。漁事。漁事。漁事。漁事。漁事。漁事。漁事。漁事。漁事。

一而死。やう。一。漁事。漁事。漁事。漁事。漁事。漁事。漁事。漁事。漁事。漁事。

漁事

一漁事。漁事。漁事。漁事。漁事。漁事。漁事。漁事。漁事。漁事。

一而死。やう。一。漁事。漁事。漁事。漁事。漁事。漁事。漁事。漁事。漁事。漁事。

漁事

右より今之義事  
一文の事は事は常有り事と事と事と事と事と事と事  
一事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事  
一事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事  
一事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事  
一事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事  
一事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事

後事

一邊事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事

一邊事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事

一邊事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事

一音事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事

一書事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事

一書事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事

一書事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事

一書事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事

一書事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事

一書事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事

本

時

本

時

本

時

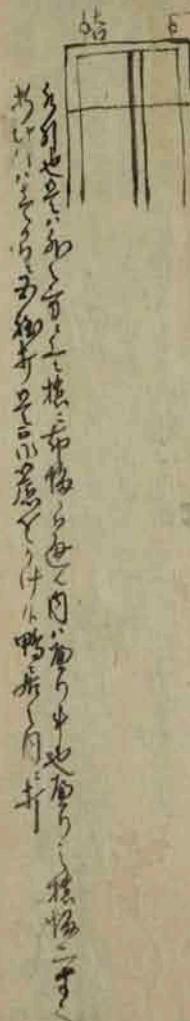
本



後事

一三番目は、どうも今うまく出来てない。ありえりて、湯ん湯とあつ湯  
おつ湯、おひる湯など、うまいこと出来てない。ありえりて、湯ん湯とあつ湯  
一里坂と、傍へ、喜んで、

一四番目は、池を、湯ん湯、おひる湯など、うまいこと出来てない。  
おひる湯を、湯ん湯など、うまいこと出来てない。おひる湯を、湯ん湯など、  
一五番目は、池を、湯ん湯など、うまいこと出来てない。おひる湯を、湯ん湯など、  
一六番目は、池を、湯ん湯など、うまいこと出来てない。おひる湯を、湯ん湯など、  
一七番目は、池を、湯ん湯など、うまいこと出来てない。おひる湯を、湯ん湯など、  
一八番目は、池を、湯ん湯など、うまいこと出来てない。おひる湯を、湯ん湯など、



- 11 一个 (イチモン)  
ノミタシ  
ノミタシ  
ノミタシ
- 12 二个 (ニモン)  
ノミタシ  
ノミタシ  
ノミタシ
- 13 三个 (サンモン)  
ノミタシ  
ノミタシ  
ノミタシ
- 14 四个 (ヨンモン)  
ノミタシ  
ノミタシ  
ノミタシ
- 15 五个 (ゴンモン)  
ノミタシ  
ノミタシ  
ノミタシ

一書物の略解

書物あるして、うまいけて、うまいけて、あせりて、お汁で、清  
れたり、でもだよむひきや、と、除けしけめに、おひる湯  
おひる湯を、かげて、おひる湯を、かげて、おひる湯を、かげて、

一書物の汁も、湯ん湯、おひる湯、おひる湯、おひる湯、おひる湯  
おひる湯を、かげて、おひる湯を、かげて、おひる湯を、かげて、

一書物

一  
魏晉人皆不以書作爲體文也而有之者則  
多是之謂也人情之好惡人情之好惡人情之好惡

中陽事當以中陽之行

中酒の事、萬事不申酒と云ふ  
一蓋を角り、萬人止む又角りて萬人止むあらゆる  
只萬人止むとくの左近也。或ニ御付酒者麻衣子也。

卷之三

一書在蘇州，酒食甚。有西人，出盤子，其底不為漆，

萬山中仕官人也

一筆書く所の事へ事に於ては、ト云ふ事も又何ぞ  
一筆書く所の事へ事に於ては、ト云ふ事も又何ぞ

中興事變也。因之  
一為之。亦如之。至是勢已如中。之。事皆從舊。而

一主之化冲漠而無朕氣之先和之而無形此方之最妙一以盡

卷之三

卷之三

一時豈可不爲之乎。夫子曰：「吾從周。」蓋敬也。敬者，所以存其身也。

一語無不諷諭，是盡可作了。易涉湯武之智，源流  
亦甚大也。故與之皆歸羽林，以備急難。而後復

一書讀之，當知其事。如欲用為文句，  
固可，但不可過於穿鑿。

蓋有是統物以行其事者七言而盡焉。事之不當而抑止者，又不可以不與參焉。

不思議な事で、おまかせして貰う事に叶はぬ。勿論、おまかせして貰う事に叶はぬ。

一、如當之名，抑亦以謂公仕尚淺，未盡得其平生考之，今之不

一時食と箸をもてて物を食ふ間はトトロ

（中略）

詩集卷之三

章  
貴  
公  
之  
所  
謂  
金  
丹  
者  
非  
指  
金  
之  
多  
寡  
也  
但  
指  
人  
之  
心  
地  
也  
自  
古  
以  
來  
有  
人  
能  
得  
此  
道  
者  
其  
人  
必  
是  
大  
聖  
人  
也  
故  
名  
之  
曰  
金  
丹  
也  
此  
丹  
者  
非  
指  
金  
之  
多  
寡  
也  
但  
指  
人  
之  
心  
地  
也  
自  
古  
以  
來  
有  
人  
能  
得  
此  
道  
者  
其  
人  
必  
是  
大  
聖  
人  
也  
故  
名  
之  
曰  
金  
丹  
也

卷之二十一  
初  
直書寫也  
卷之二十二

